

「上手な讀書家」になれ

「Learn to be good readers.»
— Carlyle to students.

オプスター 星

苟くも文化的生活を営まうと欲してゐる人に、讀書を愛さないといふ者はあるまいが、自分は少年の頃から書物とは特別の深い縁故を有し、そして今日に至るまでどの劇忙な間でも殆んど一日と雖も讀書を廢したことはない。晩酌などしない代りには書物を對手にして知識と慰安とを得つゝ、快い眠に就き、又用に出掛ける際にも汽車、汽船或は自働車の中で本讀むことを忘れない。書物と私の特別の縁故といふのは、自分が廿歳前後の頃、渡米に先ちて日本全國を周遊するの古本を賣り歩いて、それによつて旅費を得、又志を立てて世に出やうとするに當つては古本屋の太閤記が私を大いに感憤せしめて以て今日あるを致さしめたことである。

手な讀書家になれるかといふ點にある。書物も拙手に讀んで害にこそなれ、益にはならない。會で、米國で或る青年が演説を聴きに行つたといふて、ひどく感動の體で辯士の熱血濺たる光景を手眞似までして話すので、一體どういふ話だつたかと尋ねて見たら、其の青年は再び拳を握つて手眞似足眞似をして見せたが「強大大々」と答へた。私は馬鹿々々しくなつて「それぢやお前は Power-fuji を聽いて來たんだナ」と冷かして遣つたことがある。

そういう態度で演説を聴き、又そのういふ態度で書物を讀むならば演説や讀書は浪花節よりも劣つた暇潰しである、何にもならない。總じて下らない本といふのは内容のない代りにはしきりと挑發的煽動的文句を並べてイヤに若い者の心を唆つて耽讀させるものである。其の弊害は悪友の誘惑よりも甚だしい。賣行きの好い本と云つても必ずしも良書ではない。書物は選擇が必要である。

然らば如何にして讀むかと云へば、先づどんな大家の書いた本でも無條件で肯定してはならない。

飽くまでも研究的態度を保つて其の書いてある事柄を、或は自分の身に取つて考へ、或は歴史や國情に基いて鑑み、或は科學的精神に照して辨へる所がなくてはならない。鷹が鷹を生んだといふ記事を讀んで新知識を得た氣になつたり、過激主義を讀んで新思想振つたりするのは孔子の所謂「學んで而して思はざれば罔し」といふものである。それで書物を讀むには要點がどこにあるかといふことを注意し、其の要點は現實に即したもの、若くは確證があるものでなければ受け容れないやうにする。又眼を透して腹に容れるやうにする。そうすると、どのやうな本でも腹に落ちて來るまでには奇麗に過鑑されて言外の意味迄も自分の血となり肉となるものである。それから序に注意するが、日本の青年は書物を讀むのに往々具體的事實を疎んじ、數字を忘れる癖がある。随つて其の言ふことが爲すことが多く空理空論に走つて、實社會に適用されなれないことになる。物事を抽象化する哲理的頭も必要だけれども、現實界の事象をも其の儘重んじなければならぬ。

跛て走る日本文化

岩田 靜子

日札の文化は西洋の文化に比べて百五十年乃至二百年は後れてゐると學者はおつしやいまず。どういふ見方に基いたものですか私には分りませぬけれども、どうも眞面目に見ましたところでは少くも三十年や五十年は遅れてるといふ説が多いやうでございます。そして今の調子で行きますなら、日本はいよいよ世界の文化に遅れて行くわけでございます。まことに心細くなつてしまひます。

危険な保衛



發火しつゝあるヒストル(國際聯盟)の前に立てる不具の怪物は波蘭とトルコのアイランド(セルビア)の怪物

こういうやうに日本の文化の遅れて行きますのは他にいろいろ原因もありませうが、その原因は、男ばかりに跛を引いて歩かせて女は働かないからだといはれて居ります。私共日本婦人のやうに朝から晩まで急がしい思ひなして人間らしい楽しみも求めないで一生懸命働いてばかり居る者は外國には滅多にあるまいと思つて居りますのに、それを働かないと思はれますとほんとに口惜しくなつて了りますが、その譯を何つて見ますと

「神」

「神」